

No.386

全国整備工場の皆様へ NGP組合員200拠点がお届けする お役立ち情報

2023年5月19日発行 ■発行責任者/佐藤幸雄 ■編集・制作/(株)プロトリオス ■発行/(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ピル2F TEL03(5475)1200

流通活性化によるカーボンニュートラルに貢献

日本国内最大級の自動車リサイクル部品の 在庫共有ネットワーク 「オールリサイクルパーツネットワーク」が誕生!

日本自動車リサイクル部品協議会(佐藤 幸雄代表理事) に所属する自動車リサイク ル部品流通団体及び各団体の所属会員が利 用する自動車リサイクル部品在庫共有シス テム会社が、互いの部品共有システム同士 をデータ連携することで、団体・流通シス テムの垣根を超えた自動車リサイクル部品 の相互流通を開始します。

相互流通は、同協議会に加盟する12団 体が使用している6つの自動車リサイクル 部品共有システム同士がデータ連携するこ とにより実現します。これにより、在庫点 数は400万点を超え、全品保証付き自動 車リサイクル部品の国内最大級の在庫共有 ネットワーク「オールリサイクルパーツネ ットワーク」が誕生します。

自動車リサイクル部品は新品部品の利用 と比較してCO。削減効果があり、さらに 安価に修理ができるという利点から利用さ れています。しかし、昨今の配送費用の高 騰により、遠方にある部品を取り寄せる場 合には運賃が増加し、全体の費用が上昇し てしまうことから、近隣地域から部品を調 達する必要性が高まっていました。

これまでは各団体が利用する在庫共有シ ステムにおいて、データ連携が出来ていな い部分があったことから、近隣にある他団 体の商品を提案できずに、自動車リサイク ル部品業界最大の顧客である自動車修理工 場や、環境面、経済面からリサイクル部品 を活用したいと考えているカーユーザーの 選択肢が限定されるという課題がありまし

た。このような課題を解決するべく、各自 動車リサイクル部品団体同士が協力し、互 いの在庫を公開しあい、近隣地域の供給量 を増やすことが必要だという想いを共有す ることで、今回の相互流通の仕組みが実現 しました。

本取り組みにより、整備・修理工場、部 品商などに対するリサイクル部品の納品率 が向上するとともに、納期の短縮を実現す ることができます。整備・修理工場のコスト 削減、作業時間短縮、さらにはカーユーザ 一の満足度向上につながると考えています。

「オールリサイクルパーツネットワーク」 は5月中に運用を開始する予定です。同ネ ットワークによって、リサイクル部品業界 のさらなる発展を目指すとともに、CO。 削減効果の期待できるリサイクル部品の流 通拡大を促進することで、カーボンニュー トラルやSDGs、サーキュラーエコノミー の実現に向けて貢献していく考えです。

<自動車リサイクル団体>

- ・(株)エス・エス・ジー (代表取締役 大熊薫氏)
- ・シーライオンズクラブ (会長 中西孝二氏)
- ・(株)システムオートパーツ (代表取締役社長 村上統治氏)
- · 自動車補修部品研究会 (会長 清水道悦氏)
- ・テクルスネットワーク (代表取締役 針ヶ谷昌之氏)
- ・(株)ビッグウェーブ (代表取締役 服部厚司氏)

- · 一般社団法人部友会 (代表理事 森孝一氏)
- ・リビルド工業会全国連合会 (会長 深澤広司氏)
- ·一般社団法人ARN (代表理事 岡田誉伯氏)
- -般社団法人JARAグループ (理事長 川島準一郎氏)
- ・NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 (理事長 小林信夫氏)
- ·一般社団法人SPN (理事長 齊藤徹氏)

くシステム運営会社>

- ・アールイーシー (株) (代表取締役 岡田誉伯氏)
- ・(株)ジャプラ (代表取締役社長 村上統治氏)
- ・(株)ビッグウェーブ (代表取締役 服部厚司氏)
- ·(株)BBF (代表取締役 掛橋晃氏)
- ·(株)JARA (代表取締役社長 矢島健一郎氏)
- ·(株)NGP (代表取締役 佐藤幸雄氏)



記者会見に臨む自動車リサイクル団体及びシステム 運営会社の代表者たち。前列右から2人目が日本自動 車リサイクル部品協議会・佐藤幸雄代表理事(NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合 会長理事)、後列 右から4人目がNGP日本自動車リサイクル事業協同 組合・小林信夫理事長

日整連、令和4年度版「自動車整備白書」を発行



新車長納期化や 物価高騰などの影響により、 車検整備をはじめ各種作業の平均単価が 上昇傾向を示す グラフ1 総整備売上高の推移(作業内容別)

日本自動車整備振興会連合会はこのほど、 「自動車整備白書」の令和4年度版を発行 しました。同書は2022年6月末時点にお ける自動車特定整備事業者を対象として実 施した「自動車特定整備業実態調査」の結 果を報告するとともに、市場動向などを加 味した分析結果を提示することを目的とし たものです。なお、同調査結果は2022年 6月末に最も近い決算期の状況をまとめて おり、売上高などについては2021年度の 実績となります。

総整備売上高(グラフ1)は、NGPニュ ース3月号に掲載した「自動車特定整備業 実態調査結果の概要」にてお知らせしたと おり、5兆7,388億円と前年度から1,878 億円(3.4%)増加しました。

業態・作業内容別に1事業場当たりの年 間入庫台数と平均単価を確認すると、2年 車検整備(グラフ 2・3)の平均単価は、 専業が前年度比1.5%増、兼業が同0.8% 増、ディーラーが同5.7%増と全業態で前 年度を上回り、全体平均では同3.2%増と なりました。一方、1事業場あたりの入庫 台数は全体平均で0.3%減少していました。 1年車検整備(グラフ4・5) においても 平均単価は全体平均で前年度比5.4%増と 上昇傾向を示しています。市場全体では半 導体不足などによる新車の長納期化が収束 しておらず、低年式車の入庫が増えている ことに加え、ASVの普及による整備項目 の増加、部品・材料費やエネルギー価格の 高騰などが、車検整備の平均単価を押し上 げたと考えられます。また、定期点検整備 (グラフ6・7) の平均単価が上昇してい る理由についても、同様に物価高騰が影響 していると推察されます。

事故整備(グラフ8・9)は、全体平均 で入庫台数が1.0%減少したものの、平均 単価は5.5%上昇しました。ASVに対する 事故整備では、レーダーやカメラなどの高 額部品の交換やエーミング及びアライメン ト調整が求められるケースがあるため、整 備単価が上昇傾向にあります。また、経済 活動が再開したことで、交通量が増加した ことも、事故整備売上高の上昇に影響した と考えられます。





1事業場当たりの2年車検整備



80.000 70.000 2022 (調査年度)

2017

2018

専業工場 兼業工場 全体平均 61.044 58,071 57,383 60.000 53,461 53.043 50.000 48 887 48 373 49.092 46 324

2019

2020

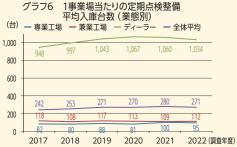
2022 (調査年度

1事業場当たりの2年車検整備

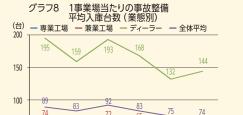












2019

2020

2021

2022 (調査年度)

2018

2017



整備士不足への対応

国土交通省、「自動車整備の 高度化に対応する 人材確保の対策」 中間取りまとめを公表

国土交通省は3月31日、「自動車整備の高度化に 対応する人材確保の対策」の中間取りまとめを公表 しました。

これは「自動車整備技術の高度化検討会」内に設置された「自動車整備の高度化に対応する人材確保に係る検討WG」において、自動車整備業に必要な人材の確保や整備士等の能力向上のための対策の検討を行った結果を取りまとめたものです。同取りまとめで示された、対策の概要を紹介します。

主な対策

I 自動車整備に関わる人材の募集策

1. 自動車整備士の職業としての魅力を正しく伝える取り組み

- ●自動車整備士の認知度を高める取り組み
- ・若年層(未就学児、小学生、中学生など)に対する 自動車整備士の職業の認知度を高める情報の発信
- ・保護者、学校関係者を含めた学校説明会の充実化
- ・自動車整備業への関心を高めるコンテンツの開発・活用
- 2自動車整備士が職業として認識されて選択される取り組み
- ・自動車整備士の魅力や重要性を周知するため、 高校生などを対象として、整備工場における仕事体験の実施
- 就職説明会の充実化
- ・中高校生などに対する出前授業、自動車整備体験会などの 充実化

2. 自動車整備業の職場環境の改善の取り組み

- ・国が策定するガイドラインを活用するなど、女性を含む すべての従業員にとって働きやすい職場環境の整備
- ・社内教育、キャリアパスの整備
- ・自動車整備事業者の働きやすい職場環境に関する情報発信

3. 学びに関する金銭的負担軽減の取り組み

・各種奨学金活用等の充実化

Ⅱ自動車整備に関わる人材の定着策

- 1. 一種養成施設等に通う学生が自動車整備に従事したくなる取り組み
 - ・最新車両に触れる機会の充実化
- 2. 自動車整備士等のモチベーション・アップの取り組み
 - ・保有資格や役職と連動し、自動車整備士が適切な評価を 受ける制度・体制の導入

3. 若手自動車整備士の定着を促進する取り組み

- ・特に若手自動車整備士にとっては、給与アップにつながる ような評価制度・体制の構築
- ・国の経営者向けセミナーから情報収集するなど、 多様な働き方の導入
- ・経験豊富な先輩整備士が若手整備士に個別支援する制度の推進
- ・「 I 2 自動車整備事業者の職場環境の改善の取り組み」

Ⅲ自動車整備に関わる人材の育成策

- 1. 効果の高い学習方法の推進に関する取り組み
 - ・VR教材の導入などによる学習環境の充実
 - ・自動車メーカーとの連携による最新車両による授業の充実化
- 2. 効果の高い教育・研修の導入・定着に関する取り組み
 - ・地域事業者間連携による合同研修の実施
- 3. 上級資格取得の推進・支援に関する取り組み
 - ・一級自動車整備士を目指せる環境の整備

\「NGP春の大感謝キャンペーン」開催中 !! ∕

宝くじなどの賞品が抽選で当たる「NGP春の大感謝キャンペーン」を、6月30日まで開催しています。

NGPリサイクル部品に貼付されるギャランティシールを3枚集 めてご応募いただいた方の中から、抽選で1,000 名の方に宝くじ などの賞品をプレゼントいたします。

さらに今回は応募者の中から抽選で300社様に、3,000円相当の豊島オリーブセット(オリーブオイル、塩、オリーブ石けん)と自動車リサイクル部品環境貢献書をプレゼントする「カーボン

ニュートラル賞」をご用意しました。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト(https://www.ngp.gr.jp/campaign/)からダウンロードすることも可能です。なお、ギャランティシールに付帯しているベルマークは切り離し、ぜひ地域社会貢献にご活用いただきたくお願い申し上げます。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



NGP 今月のCO₂削減量

リユース部品利用に伴うCO2削減量

今和5年3月: **2,155t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目(左右ある部品を含むと115品目)を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO2削減量

令和5年3月:

0.7t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO。排 出量削減の取り組みです。良ポールに 代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出してお ります。

NGP組合員 かわら版

環境教育の推進を目指して

NGP、「自動車リサイクルを通じて 3Rの大切さを伝える取り組み」について講演

NGP協同組合は3月27日、グリーン 購入ネットワークと日本LCA学会 環境 教育研究会が共催する環境教育をテーマ としたセミナーに、講師として参加しま

NGPはグリーン購入ネットワークが主催する「グリーン購入大賞」において、2021年に「大賞・経済産業大臣賞」を受賞しており、今回、受賞団体として講演依頼を受けました。講演ではNGP・谷洋紀事務局長が登壇し、「自動車リサイクル事業者として3Rの大切さを伝えるために」と題して、NGPの環境教育へ向けた取り組みを発表しています。自

動車リサイクルの仕組みを学ぶことができる「環境教育ノート」を使用済み自動車に付属する取扱説明書からアップサイクルして製作し、その環境教育ノートをコロナ禍で開催したバーチャル工場見学などで活用したこと、香川県豊島での環境再生・保全活動を通じた環境教育の事例などが紹介されました。

同セミナーにはWeb会議システムを通じて55団体104名が参加しており、講演後にはメールやチャットで多くの質問が寄せられるなど、環境教育に対する関心の高さを再認識することができました。

NGPは、自分たちの力だけでは、子



どもたちと地球の未来を守ることはできないと考えています。NGPは引き続きセミナーやイベントに参加することで、自動車リサイクルを通じて3Rの大切さを伝えながら自らの取り組みの裾野を広げ、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

カーボンニュートラル及びサーキュラーエコノミーの実現に向けて

NGP、矢崎部品(株)に対し、工場見学会を実施

NGP協同組合は、4月4日に矢崎部品(株)・裾野製作所(静岡県裾野市)に対し、自動車リサイクル工場見学会をNGP組合員会社の(株)マルトシ青木(静岡県藤枝市)で実施しました。

ワイヤーハーネスの製造会社である矢崎部品(株)より、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けた課題と解決策を考えるため、ワイヤーハーネスが現状どのようにリサイクルさ



れているかを視察したいとの要望を受けて、今回の工場見学及び意見交換会を実施することになりました。

工場見学会では、主に自動車リサイクル工程を見学し、特にワイヤーハーネスを銅ナゲット製造機でナゲット加工する工程を重点的に見学しました。同社で開発した製品がどのようにリサイクルされているのかを確認した上で、今後の製品開発の参考とすることを目的とした、ワ



イヤーハーネスのリサイクルに関する意 見交換を行いました。

資源リサイクルに重点的に取り組む NGPにとって、使用済み自動車のワイヤーハーネスから高品位な状態での銅の 回収を目指す矢崎部品(株)から工場見学の申し込みを受けて、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの実現に向けた意見交換ができたことは、とても意義深い機会となりました。



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209 https://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201 https://www.ngp.co.jp/











FSC®森林認証紙、ノン VOC インキ (石油系溶剤 0%) など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンブリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO_2 全量をカーボンオフセット(相殺)した「 CO_2 ゼロ印刷」で印刷しています。